

第46回全国高専体育大会で優勝
全国高専将棋大会に出場して
日本高専学会第17回年会(優秀ポスター賞)
第46回全国高専体育大会で優勝

仙台高専

高専トピックス1

第46回全国高専体育大会で優勝

～東日本大震災の中での価値ある全国優勝～ (野球部主将：本宮裕太) [仙台高専]

第46回全国高専体育大会野球競技でわが仙台高専名取キャンパス・チームは、決勝で昨年まで2連覇の強豪近畿大学高専を破り、見事4年ぶり3回目の優勝を果たしました(統合後の仙台高専としては初めて)。3月11日の東日本大地震でグラウンドに最大長60m、幅60cmもの地割れが縦横に走る大変厳しい環境の中で猛練習を積み『被災のため練習不足だから敗れた。』と言われまいと必死で頑張ろう。』を合言葉に臨んだ大会だっただけに、この日本一が地元宮城県そして東北の被災した多くの人たちに励みと希望を与えることができたこと部員一同大いに誇りに思っています。



～サポートしてくれたすべての人に感謝～ (柔道部主将：豊田俊一) [仙台高専]



3月の東日本大震災により、道場が使えなくなり満足のいく練習ができない状態が続きました。また、私の家も津波によって失い、部員の中には原発の関係で避難を余儀なくされた者もいます。そんな状況でも、私たちは全国優勝を目標にできる範囲の稽古を必死にやってきました。顧問の平間先生の指導やOBの先輩方の応援、後輩たちやマネージャーたちのサポート、そして5年間共に励み合いながらやってきた仲間達。それらすべてがあったからこそ、13年ぶり2度目の全国優勝(初回は旧・宮城高専で優勝)を果たすことができたのだと思います。今はすべての方々に、大きな声で感謝を伝えたいです。

富山高専

高専トピックス2

全国高専将棋大会に出場して

(高村咲也子) [富山高専]

将棋を始めたきっかけは、富山高専に入学した当初に、部の顧問でもあったクラスの担任にすすめられたことでした。部室を覗くと、かっこいい先輩方が楽しそうに将棋を指していて、運動部とはまた違った「静」の魅力を感じ入部を決意しました。女子の将棋人口は男子に比べても少なく、当時女子部員が全くいなかったのですが、家族や部の仲間、その他大勢の人に教えてもらい、少しずつ上達し、将棋の楽しさを知ることができました。今までに多くの大会に出場して、何度か入賞しましたが、昨年の全国高専将棋大会では決勝で負けて悔しい思いをしました。今回優勝できたことは、たいへん嬉しく、さらに今年は地元開催だったこともあり、部員や先生、家族や地元の人々にも喜んでくれてとても幸せでした。将棋をやめようと思った時期もありましたが、続けてよかったと思えた瞬間でした。将棋を始めたことで、全国でたくさんの友達や思い出ができ、いい経験になったと思います。将棋をすすめてくれた先生、楽しさを教えてくれた仲間には本当に感謝したいです。



米子高専

高専トピックス3

日本高専学会第17回年会(優秀ポスター賞)

8月27日・28日の両日、鈴鹿高専において開催された日本高専学会第17回年会において、米子高専の学生が2件の優秀ポスター賞を受賞しました。

専攻科生産システム工学専攻1年の富谷真吾さん、電気情報工学科5年の荒木優一さん、仲野聡さん、綱島慎之佑さん、戸田健斗さんのグループが“Bi系高温超伝導体における臨界電流密度の増大”というテーマで、物質工学科5年の岸本麻穂さん、清水香穂さんのグループが“食品香気のスウィッチングを指向した1, 3-0, S構造を有する分子の1ポット合成”というテーマでそれぞれ発表し、優秀ポスター賞に選ばれました。

発表した電気情報工学科5年荒木優一さんは、「私は日本高専学会で“高温超伝導体の重要な性質である臨界電流密度を増大させた”という内容を発表した結果、優秀ポスター賞を受賞することができました。この結果に驕ることなく、今後も研究に励みたいと思います。」と話し、物質工学科5年岸本麻穂さんは、「今回の学会では、研究内容をアピールする手段にポスターボードとiPadを融合させた新しい様式でプレゼンに挑戦しました。その結果、異分野の先生からも評価していただくことができ、今後の卒業研究の励みにもなりました。」と話しました。

今回は、発表112件中1件の最優秀ポスター賞と9件の優秀ポスター賞が選考され、そのうち2件の優秀ポスター賞に米子高専の学生が選ばれたことは喜ばしく、今後も、学会、発表会等へ積極的に参加し、研鑽を積ませたいと考えています。



高知高専

高専トピックス4

第46回全国高専体育大会で優勝

～剣道競技～

高知高専剣道部は、平成23年8月28日(日)、長岡市市民体育館で開催された第46回全国高等専門学校体育大会剣道競技において、団体戦では初優勝、男子個人戦ではベスト4を独占、女子個人戦では準優勝というこれまでにない好成績をおさめることができました。高知高専剣道部の部員数は現在27名と年々増加し、その中でお互いが切磋琢磨しながら練習に励んでいます。全国高専大会団体戦への出場枠は四国地区では1校ですが、高知高専剣道部は3年連続で四国地区を勝ち抜き、全国高専大会に出場しました。しかし、一昨年は予選リーグで敗退し、昨年は予選リーグを25年ぶりに勝ち上がることができたものの準決勝で惜敗しました。今年は技術面だけでなく精神面も一回り成長し、主将の谷口選手(物質工学科5年)を中心にチームがまとまり、特に昨年度優勝の鈴鹿高専との準決勝戦では選手の気合・集中力には素晴らしいものがありました。個々の選手の頑張りは当然のことですが、選手以外の多くの部員のサポートも大きな力となりました。また、昨年度発足した高知高専剣道部保護者会も剣道部の活動を支え、見守ってくれています。来年度も全国高専大会という大舞台で活躍できるよう日々精進していきたいです。



決勝戦 高知高専-佐世保高専



第46回全国高専大会表彰式後の写真